
MEICOM
PROCESS INNOVATION
あなたと未来を創る
ヒヤリハット活動の
「脱アナログ化」のメリットとは？
～Excel・紙管理からの卒業ガイド～
Traffic Sources Overview
Direct Traffic
Referring Sites
Visitors Overview
Visitors
2,958
Apr 19
Apr 26
25,423
3.32 Pages/Visit

本書を読むとわかる３つのこと

1. ヒヤリハット管理をデジタル化するメリットがわかる
2. 紙・エクセルでの管理との違いがわかる
3. システムを現場でスムーズに導入する方法がわかる

本書の内容

1. 本書を読むとわかる３つのこと
2. 本書の内容（目次）
3. 現場で起きている課題
4. ITツールを導入する企業が増えている背景
5. 「紙・エクセル」との徹底比較
6. システム導入の流れと成功のポイント
7. サービス紹介



Chapter 01.

現場で起きている課題

ヒヤリハット活動は一見すると単純なルーチンワークですが、
現場には見逃せない悩みやトラブルが潜んでいます。
ここでは、現場の多くが直面している代表的な”課題”や、
システム化によって解決できる方法を具体的にご紹介します。

現場で起きている課題は？

よくある課題 1

件数はあるけど
改善に活かせていない…

- 過去分も含めて件数は溜まっているが、改善できていない事案も複数残ってしまっている。
- 仕分けや整理が追いついておらず、どの程度改善に活かせているか分からない。

よくある課題 2

溜めているだけで
社内で共有できていない…

- 安全担当者には情報が集まるが、現場の社員同士では情報共有ができていない。
- 結果、注意喚起ができず、似たような事案が多数発生してしまう。

よくある課題 3

過去のデータを見つけるのに
時間がかかる…

- エクセルをフォルダに溜めているけど、探し始めると見つからない。
- 探すだけで数時間かかることがある。
- 結果、探すのが面倒で過去データを振り返ることはなくなってしまった。

▶この3つの課題を解決するのが、ヒヤリハット活動の**デジタル化**です。

市場環境

ヒヤリハット活動に
ITツールを導入する企業が増加している背景は？

1.労働力不足と技能継承の必要性



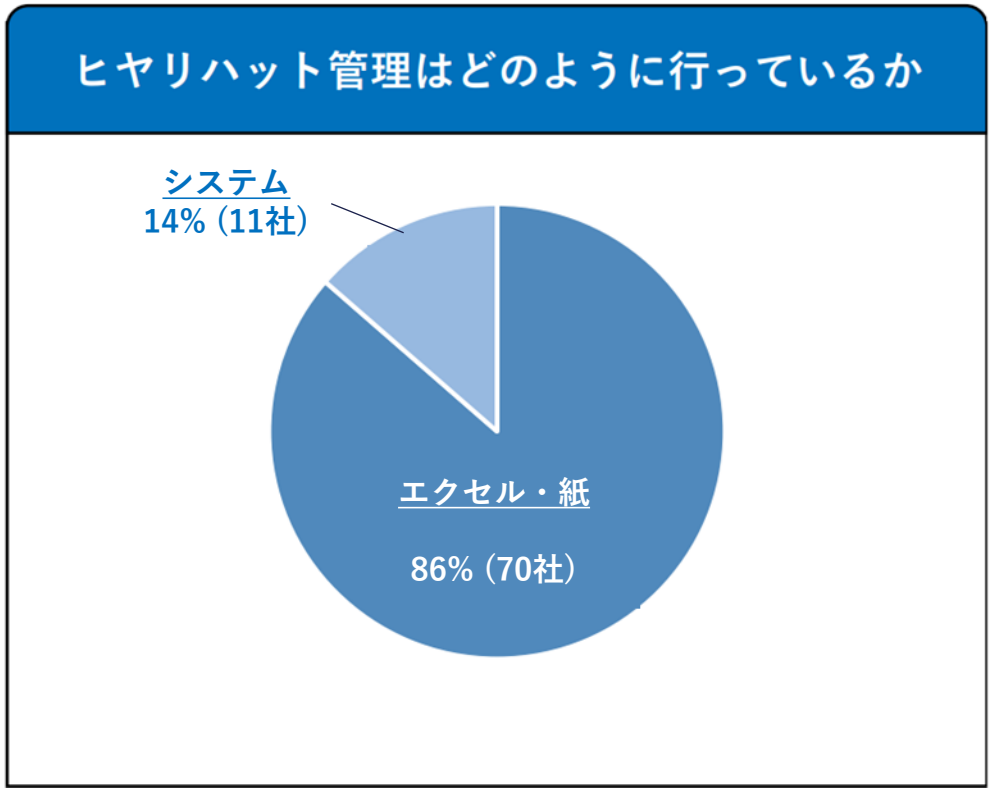
多くの現場では熟練者の引退や若手不足により、技能継承が難しくなっています。ヒヤリハット事例は経験豊富な作業者の暗黙知による回避が多く、紙や口頭では全体共有が困難です。ITツールにより現場の危険兆候を即時共有・蓄積でき、技能継承と安全教育の効率が大幅に向上します。



2.DXの進展

IoTやAIなどによるDXが進む中、安全管理もデータ活用型へ移行しています。ITツールでヒヤリハット事例を記録することで、事故兆候の早期検知を効率化します。将来的には、作業情報や安全データの統合管理により、安全・品質・生産性を同時に高めることができます。

すでに成果を出し始めている”先行組”



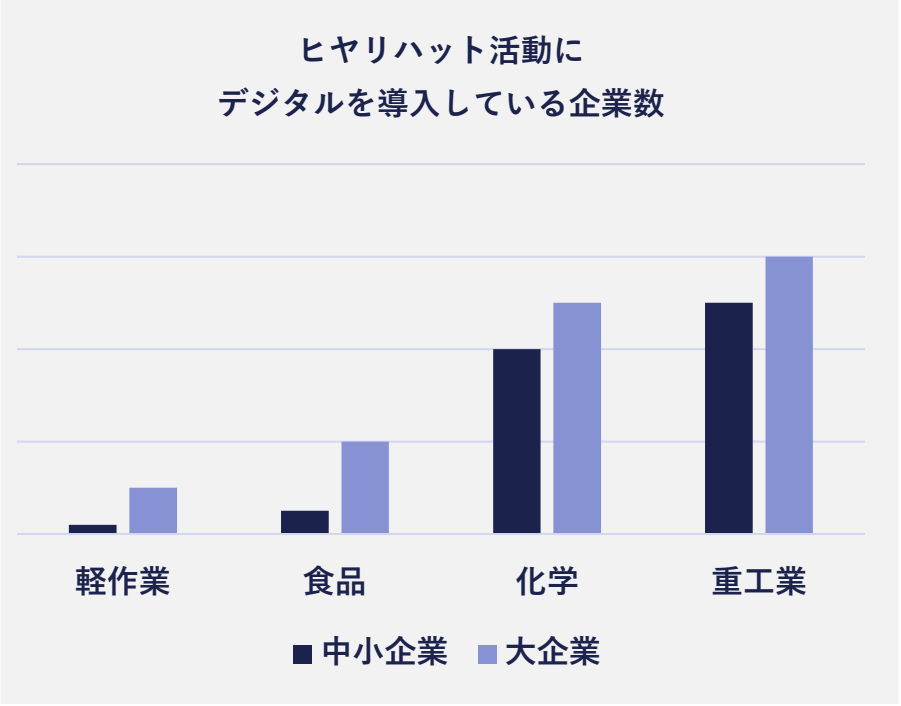
メイテツコムによる独自アンケート調査結果（2025年実施）

まだ多くの企業が紙やエクセル管理を続けています。

しかし、すでに一歩先に進んだ企業は、システム化によって“効率化”と“再発防止”を実現し、メリットを獲得しています。

いまのうちに動くことで、
社内の安全文化づくりを先取りできます。

安全管理のDX化が進んでいる業種や企業規模の傾向は？



メイテツコムによる独自アンケート調査結果（2025年実施）

※図はイメージです

【デジタル導入が進んでいる企業の特徴】
・規模が大きく、拠点が複数に分かれている。

・国際規格（ISOなど）への対応が求められる。

・労働災害発生時の影響が大きい業種（化学工場や鉄鋼業などの重化学など）は、中小規模であっても導入が進んでいる。

**導入は”大規模・規制業種”から広がり、
いま中小企業にも波及しはじめています。**

ヒヤリハットデータベースの詳細を確認する

課題解決策

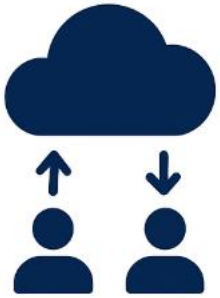
ヒヤリハット活動のデジタル化で解決できる課題とは？

情報収集→改善
サイクルの効率化



ヒヤリハット事例を現場から即時に入力・共有できることで、情報収集から改善策立案までの時間を大幅に短縮。紙やエクセルでは埋もれがちな小さな事例も漏れなく収集でき、再発防止のPDCAサイクルが高速化します。

情報共有の
利便性・スピードがUP



クラウド上で全拠点・全担当者が同一データを閲覧でき、横展開が即日可能に。写真付きの報告により、言語や経験の差を超えて危険の状況を直感的に共有できます。これにより、安全文化の定着が加速します。

分析精度向上による
予防力強化



蓄積された事例データを自動分類・統計化し、発生傾向や原因を可視化。事故予兆を早期に検知できるため、重大災害を未然に防ぐ施策が立案可能になります。安全性の向上は生産性や品質にも波及し、結果的に企業価値を高めます。

徹底比較

紙・エクセルとの違い

	システム化		紙・エクセル	
運用コスト	△	• 導入・月額費用が発生。	◎	• ほぼ不要。
情報収集スピード	◎	• 現場からスマホやタブレットで即時入力・送信。**リアルタイムで共有**可能。	△	• 報告用紙の回収やメール添付で時間がかかる。記入漏れが発生しやすい。
データの正確性	◎	• 必須項目設定やプルダウン選択で入力漏れ・誤記を防止。**写真添付**も可能。	△	• 手書きや手入力による**誤記・入力ミス**のリスクが高い。
集計・分析の手間	◎	• 自動集計・分類が可能で、傾向分析や再発防止の立案が迅速。	△	• 集計作業を手作業で行い、分析まで時間がかかる。横展開が遅れる。
情報共有の範囲	◎	• クラウド上で**全拠点・全担当者が同じデータ**を閲覧・活用できる。	△	• **部署や拠点ごとにデータが分断**され、全社的な共有に手間。
検索性	◎	• キーワード検索やフィルタで**過去事例を即時参照**が可能。	△	• 過去事例の検索に時間がかかる。

- 業務効率化や収集したデータの積極的な活用にシステム化は大きなメリットをもたらします。
- 今後を見据えた組織づくりのためにも、デジタル導入の一歩を踏み出すことをおすすめします。



Chapter 02.

システム導入の流れと成功のポイント

ヒヤリハット管理システムの導入は、単なるシステムの導入ではなく、
現場・安全対策担当・経営陣をつなぐ重要なプロジェクトです。
ここでは、失敗しないための導入・運用ステップと、
現場に“根付かせる”コツを詳しく紹介します。

成功のポイント

ヒヤリハット活動のデジタル化における成功のポイントは？



現場に寄り添った機能と手厚いサポート

シンプルなUI・複雑すぎない機能設計など、デジタル化に慣れていない現場目線で使いやすいことが重要。導入後も安心できるサポート体制が定着のカギ。



安全文化を根付かせる業務フロー設計

既存の安全管理プロセスに組み込み、誰でも簡単に報告・共有できる仕組みを構築することで、全員参加型の安全文化を醸成。

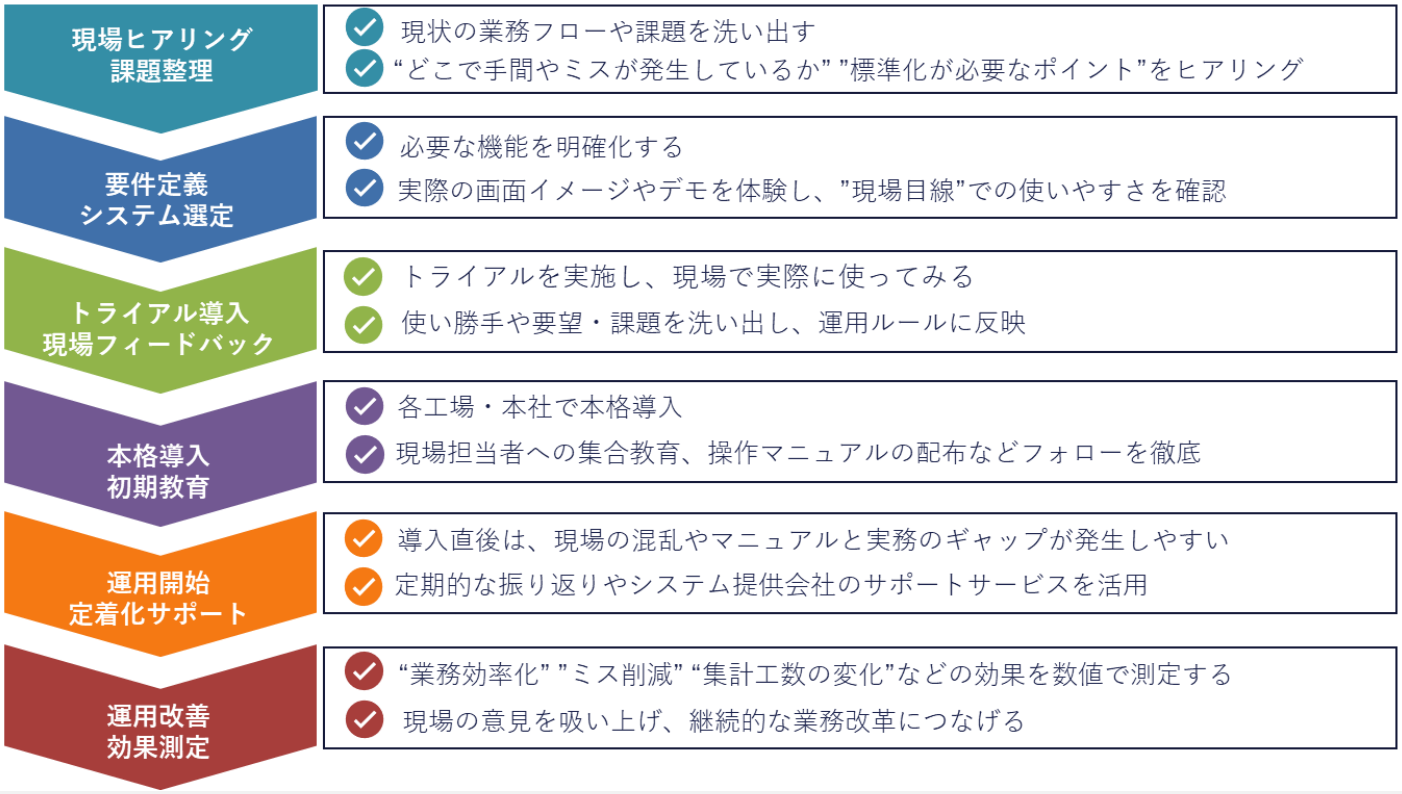


小規模から始めてスピード展開

パイロット導入で効果を確認しつつ、段階的に全社へ展開。短期間での本格運用開始により、早期に成果を実感。

システム導入・運用の流れ

▶単にツールを入れるだけでなく、導入前の課題整理から運用定着・効果測定までのプロセスを踏むことが重要です。



ヒヤリハットデータベースの詳細を確認する

メイテツコムの”ヒヤリハットデータベース”

ヒヤリハット活動を最適化するヒヤリハット活動専用のサービスです。サービス詳細は[こちら]からご確認できます。

サービスの特長

- シンプルで現場に優しい画面デザイン
- 収集から分析まで一元管理
- 承認フロー・コメント機能あり
- リーズナブルな価格設定



”ヒヤリハットデータベース”の特長



①スマホやタブレットで素早く情報共有

Webシステムを採用しているため、場所を選ばずに利用でき、ヒヤリハットの発生時に即座に報告が可能です。



②分析機能をつかって集めたデータを有効活用

「自動タグ付け」「検索」「グラフ表示」など、豊富な分析機能によってヒヤリハットの有効活用を支援します。



③リーズナブルな価格設定

料金は月額定額制で、各社の運用に合わせて入力項目や承認フローなどのカスタマイズが可能です。詳細はヒアリングのうえご提案いたします。

サービス事例

メイテツコムの商品を活用して
年間1万件のヒヤリハットのデータベース化に成功

名古屋鉄道株式会社

- 愛知県・岐阜県を基盤とする鉄道会社
- 従業員数：4,987人（2024年3月時点）

導入後の効果

- 乗務員・施設・車両係員など、
  社内の様々な現場のヒヤリハットを１つのデータベースに集約
- 「いつ、どこで、なにが起きたか」をいつでも簡単に検索→対策漏れを徹底管理
- KY（危険予知）活動や教育に展開
- 各部へ通知機能で情報展開



せっかくのヒヤリハット報告が活かされてなかったことを何とかしたかったんです。
今では、現場の声が他部署にも共有されて、“次につながる”感じがありますね。
KY活動や朝礼で活用しており、現場の動きが変わってきたと感じています。

ヒヤリハットデータベースの詳細を確認する

会社概要

会社名	株式会社メイテツコム
設立年月日	1976年（ 昭和51年 ）9月27 日 名古屋鉄道などグループ３社の電算部門を統合して設立 2000年に名鉄コンピュータサービスから商号変更
代表者	取締役社長　山田和利
資本金	1億円
従業員	402名（2025年3月期）
売上高	111.8億円（2025年3月期）
事業所	本社　　名古屋市中村区名駅南 東京支店　東京都港区浜松町
事業内容	IT化戦略立案コンサルティング 業種別ソリューションの提案およびシステム開発・運用 （交通・物流・流通・公共・放送・文教・観光・レジャー その他ビジネス全般） ASPサービス、パッケージソフトの開発・販売 インターネット電子決済サービス 情報システムアウトソーシングの受託 インターネットデータセンターサービス
関連会社	株式会社名鉄情報システム（名古屋市） 株式会社ホクリクコム（金沢市）
HP	http://www.meitetsucom.co.jp/



ヒヤリハットデータベースの詳細を確認する

お問い合わせ先

安全対策業務のお悩みを解決します

導入に関するご相談・ご質問がある方はお気軽にお問い合わせください。



無料トライアル実施中！
ぜひお試しください

まずは資料請求

MEICOM
PROCESS INNOVATION
あなたと未来を創る